

令和4年度

学校関係者評価

学校法人 鴻池学院 鴻池学園高等専修学校

令和5年10月26日

●学校関係者評価について

鴻池学園高等専修学校における「令和2年度学校自己点検・評価」の結果に対する「学校関係者評価」については、本校1～3年の保護者全員に対するアンケートによる意見や要望を収集し、学校関係者評価委員のよる意見ならびに評価を集約し、公表する。

●学校関係者委員構成

- ・ 高等学校代表 2名
 三重徳風学園 徳風高等学校 校長
 三重徳風学園 徳風高等学校 教頭
- ・ 企業及び関係団体代表（高齢者施設役員） 1名
- ・ 卒業生代表（病院勤務 介護分野 担当） 1名
 （介護施設ディサービス管理者） 1名
- ・ 地域住民代表(元本学院職員) 1名

●学校関係者評価の目的

1. 自己点検・評価の結果に対する客観性・透明性を高める
2. 鴻池学園高等専修学校における教育の質および水準の現状把握および明確化
3. 鴻池学園高等専修学校における今後の教育方針の策定や教育内容の改定・向上
4. 後期中等教育機関としての専修学校高等課程の社会的認知向上
5. 進学希望者に対する学校選択に関する利便性の提供

1. 教育理念・目的・育成人材像

	評価項目	
1	理念・目的・育成人材像は定められているか	3
2	学校における職業教育の特色は明確か	
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	
4	学校の理想・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	
5	各教科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズにむけて方向づけられているか	

自己評価に対する評価 4.適切、 3.ほぼ適切、 2.やや不適切、 1.不適切

<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念や目的、育成人材像については、学校ホームページや生徒手帳には記載されている。令和4年度も令和3年度に続いてコロナ禍の為、学校行事等が少なかったが徐々に動き出しており、保護者の参加やご協力・ご理解をいただきながら理念や教育目標について、理解周知されつつある。 ・ファッションの学校であるという事は、地元中学校の先生方や地域住民も周知している。最近では、転入生が2年生、3年生から入学してくる為、普通科の入学生が増えている。 ・普通科は、幅広く資格を取るのが特色でIT関係の授業だけでなく移動支援従業者養成研修や住環境コーディネーター3級の授業を受けている。 ・指導要領にとらわれない技能教育が出来る事を利用して授業の展開がなされている報告があった。

2. 学校運営

	評価項目	
1	目的に沿った運営方針が策定されているか	3
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	
3	運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	
4	人事、給与に関する規定等は、整備されているか	
5	教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	

自己評価に対する評価 4.適切、 3.ほぼ適切、 2.やや不適切、 1.不適

- ・事業計画や運営方針等は、常に明確にしており問題はない。ほぼ自己評価の見解に同意するように入学生の生徒数が激減した年からの増加率が少ない。渉外担当だけでなく教員も時間を調整して生徒募集に中学校訪問を行い努力している。今後の動向を観察する。
- ・学校内組織図に沿って意思決定を行われている。
- ・教育活動等に関する情報公開は、ホームページを本校職員が公開出来るようにプログラムしており、またホームページに公開している付帯事業情報も掲載している。コロナ禍で秋の渉外活動が、入学希望者が減少した結果になっている。次年度に期待する。

3. 教育活動

	評価項目	
1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
2	教育理念、育成人材や業界のニーズを踏まえた学科の就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
3	カリキュラムは体系的に編成されているか	
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	
8	職業教育に対する外部関係者から評価を取り入れているか	
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	
14	教員の能力開発のための研修等が行われているか	

自己評価に対する評価 4.適切、 3.ほぼ適切、 2.やや不適切、 1.不適切

- 出席を重視した成績評価方法に切り替え、出席率は上昇したことは評価されるが、学年末の定期テストの受験資格を得た後のモチベーションを保つ指導がこれからの課題になっている。
- 学校授業は、通常に戻っているが、生徒の出席状況は、本人の意思を尊重することになっているので進むペースがもどっていないのが、やや気になる。
- 総合福祉科は、今年度介護職員初任者養成研修の資格取得の年の為、夏季休暇を利用して講義・実技を行っており12月で修了した。修了評価は、年々学力が落ちており補習と再試験を2回必要な生徒が出てきている。介護職は、即、戦力となると好評であり、卒業生が大学生や専門学校生になってアルバイトとして活躍していることは、評価できる。
- 成績評価や単位認定、進級・卒業判定は、教職員全員参加による判定会議で行われており生徒個人別カードを作り生徒にも理解させている事は、評価できる。
- 資格取得の授業は、他の専門学校や短期大学の非常勤講師及び企業との連携をしている非常勤教員が、担当している。資格試験を全員参加から自由選択に変えた一時期は、受験者が減少したが、専門の資格取得の重要性を生徒に常に話しかけているので、検定試験の受験者が徐々にではあるが、増えているのが評価される。
- 資格取得等については、生徒が受験しやすいように検定試験の受験料の半分援助を行っているのは評価される。
- 非常勤の教員も加わった研究授業等が行われ、指導方法等の研修に力を入れていることは、評価される。

4. 教育成果

	評価項目	
1	就職率・進学率の向上が図られているか	3
2	資格取得率の向上が図られているか	
3	退学率の低減が図られているか	
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	

自己評価に対する評価 4.適切、 3.ほぼ適切、 2.やや不適切、 1.不適切

- ・就職・進学に係わる情報は、生徒に全て提供し支援している。最近では、就職より進学希望者が増え、指定校推薦やAO入試等を利用して合格率が、上がってきている。また、中でも 医療関係は難関と言われているが、専門学校の看護学科や理学療法学科に合格している。
- ・就職希望者には、就職フェアに担当教員が引率している。実際、就職希望者の受験先（企業）に前もって担当教員が訪問して人事課にて面談を行う事等は、評価される。
- ・コロナ禍でボランティア活動、介護施設や保育所等の施設体験が、出来なかったことは残念である。
- ・3年生の就職の為にガイダンスとしてのマナーや面接等の練習等個別に行い、其々に適した指導が就職に繋がったと考えられる。
- ・ファッション科の資格取得の幅が広くなり、社会のニーズに特化した資格取得に近づいてきていることが伺える。
- ・5月連休後から3者面談を行い家庭との連携を行うことにより生徒の様子や異変を素早く察知できる様になっていると報告があった。
- ・インターネットを利用してSNS等に学校の様子を上げる生徒が増えている。利用方法に良し悪しがある。学校集会を行い生徒にインターネットのマナーを守ることを理解させ細則にも載せている事は、評価できる。
- ・卒業生の学校訪問や連絡があり、卒業時担任だけでなく教職員で把握できている。また、再就職の紹介も行っているため、卒業生も来校しやすいと思われる。

- ・卒業生が、退職した時、その企業より引き続き本校の卒業生を依頼していただけている点は、評価できる。卒業生も退職するまで、良好な勤務態度であったことが伺える。
- ・短期大学や専門学校に進学した卒業生が中途退学した後、本校で取得した資格で就職しているケースが多くみられる。中には介護職員初任者養成研修を取得していた為介護施設に就職し、介護福祉士国家資格を取得したことは、技術と資格を習得して卒業したことが評価できる。

5. 学生支援

	評価項目	
1	就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
2	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	
3	学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	
4	学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	
5	課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	
6	学生の生活環境への支援は行われているか	
7	保護者と適切に連携しているか	
8	卒業生への支援体制はあるか	
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	
10	専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	

自己評価に対する評価 4.適切、 3.ほぼ適切、 2.やや不適切、 1.不適切

- 例年通り就職希望者だけでなく進学希望者の指定校推薦入試が年々増えているため、マンツーマンでの面接、マナー対策を行っている。その結果が、合格率に繋がっていると評価される。
- 教育成果にも記載したが、担当教員の就職フェアの引率、人事課担当者と面談を先に行う等一人一人丁寧な対応を行っているのは、評価される。
- 生徒の経済的側面な支援では、資格試験の受験料の支援等が有効であると評価されるが、当日無断欠席の生徒対応が、今後の課題である。
- 生徒の健康管理については毎年5月におこない、修学旅行がある3年生は、特に受診日に欠席をしないよう指導している。いままで学校に向かなかつた生徒も徐々に向くように指導しているのが、評価される。
- 欠席や遅刻の多い生徒には、保護者と常に連絡をとり、共通の理解が出来るように努めていることが伺える。
- 男子は、毎年6月に三重県の徳風高等学校生としてサッカーの試合に参加している。今年度は他の高校では生徒がコロナに罹患した為インターハイに出場することになった。第一回戦は不戦勝で16位からの戦いになり、第2試合でいつも通り負けた。しかし。1～3年生の男子の良好な上下関係が築くことが出来たことは、評価する。
- 既卒生に対しても就職の斡旋を行っていることは、評価される。
- 進学したが残念ながら退学した卒業生も介護職やファッション業界で活躍しているのが高等専修学校の強みとも言える。
- 専門学校とのキャリア教育・職業教育の一環として介護職員初任者養成研修や移動支援従業者養成研修を行っていることは評価できる。

6. 教育環境

	評価項目	
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るよう整備されているか	3
2	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	
3	防災に対する体制は整備されているか	

自己評価に対する評価 4.適切、 3.ほぼ適切、 2.やや不適切、 1.不適切

<ul style="list-style-type: none">・令和4年度は、国の私立学校施設設備費補助金と設備費を利用してコロナ禍での安全対策を講じるため除菌機能を備えた空調設備を設置して全てのエアコンの入れ替えが終了できた事は、設備に関して計画的に整備されていると評価できる。・ファッション科は歴史がある為、古いものでも大切に使用することを教えながら新しい機器に慣れる教育がなされている。・防災については定期的に検査及び訓練をおこなっている。また、地震等については職員室に掲示されている東大阪市のハザードマップを参考に対応の準備が必要である。・キャリア教育、インターンシップなど社会に繋がる教育として福祉コースのボランティアが奨励されているが、コロナ禍で行われていない。

7. 生徒の受け入れ募集

	評価項目	
1	生徒募集活動は適正に行われているか	3
2	生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	
3	学納金は妥当なものとなっているか	

自己評価に対する評価 4.適切、 3.ほぼ適切、 2.やや不適切、 1.不適切

- ・ 生徒募集活動は中河内、北河内中心から大阪市内さらに大阪東線沿線で旭区や新大阪から吹田まで活動範囲を広げている。しかし、生徒の出身地域が狭いのが現状である。定員に満たない理由をさらに分析する必要がある。
- ・ 平成24年以降入学者が減少している。令和3年度より推薦入学希望者は受験料だけでなく入学金の免除も行っている。受験者数は一時期2-3名増えたが、あまり変化はないのは金銭的なこと以外にもっと入学者数に繋がることを取り入れる必要が在る。定員割れの公立高校を受験する併願受験者が多い為、入学者数に繋がっていないのも残念である。
- ・ 令和2年度よりファッション科、総合福祉科、普通科に改編したことを重点的に渉外活動で中学校へ周知した。
- ・ 本校各担任が、夏季休暇中に担当生徒の中学校へ生徒の状況報告と生徒募集に訪問すると、卒業生が進学及び就職出来ている事を喜んでくださっているが、不登校の生徒のほとんどが単位制高校を希望しているのが、受験者数に歯止めを受けている。
- ・ 教員の報告書により、学校訪問すると本校の教員の顔を覚えていただいている学校も出てきたことが良い結果に繋がっている。
- ・ 就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍の教育成果が、生徒募集に徐々に浸透されているが、広範囲での中学校と新任の中学校教諭への周知が必要である。
- ・ 学納金は、令和3年度入学生より教育充実費を徴収することを大阪府より許可され、計画的に施設設備費に利用されているのは評価できる。
- ・ ほとんどの家庭が、国の就学支援金及び大阪府の授業料支援補助金、奨学のための支援金を利用している。また、大阪府育英会を利用している場合もあり、修学旅行等の積立金の分納を行っており学納金は、妥当と言える。

8. 財務

	評価項目	
1	中長期的に財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	
3	財務について会計監査が適正に行われているか	
4	財務情報公開の体制整備はできているか	

自己評価に対する評価 4.適切、 3.ほぼ適切、 2.やや不適切、 1.不適切

- ・ 学生生徒等納付金は希望者には分割を行い、入学者の負担を軽減している。
- ・ 財務書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、資金収支内訳表、消費収支内訳表、財産目録、事業報告書、監査報告書、寄付行為、役員等名簿、）をホームページ上で公開している等、特に問題は無い。

9. 法令等の遵守

	評価項目	
1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営が行われているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	
4	自己評価結果を公開しているか	

自己評価に対する評価 4.適切、 3.ほぼ適切、 2.やや不適切、 1.不適切

- ・ 個人情報の保護については、以前より鍵の掛ける範囲を広げ、出来るかぎり慎重に扱っている。
- ・ 自己点検・学校関係者評価で明らかになった改善点については、教職員一同が可能な限り取り組んでいる。
- ・ 毎年自己点検評価報告、学校関係者評価報告の公開を本校ホームページで行っている。

10. 社会貢献・地域貢献

	評価項目	
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献が行われているか	3
2	生徒のボランティア活動を奨励・支援しているか	
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	

自己評価に対する評価 4.適切、 3.ほぼ適切、 2.やや不適切、 1.不適切

- ・コロナ禍で介護施設での生徒のボランティア活動が出来なかった。授業で鴻池新田駅付近から学校までのゴミ拾いをしてボランティア活動を行っている。
- ・各種選挙の会場として約50年以上前から専門課程の教室を提供しているのは、地域貢献が出来ている。